

いろいろ頑張りました！平成27年度 各委員会活動報告



**「こども達を支援している事業所の集い」を開催。もっと機会が増えてほしい。**

交流委員会

多摩区内でこども達への支援に関わっている関係者を中心に初めて開催。区内の児童に関わる事業所15名、協議会・行政15名、合計30名と多数の参加者を得られて盛況でした。事業所の各メンバーは4グループに分かれ、話しやすい雰囲気の中から率直な意見交換がなされ、様々な課題が浮き彫りに。事業所間の交流もぐっと深まりました。参加者からは「時間が足りないくらい」「こんな機会が増えてほしい」との声が続出でした。



**防災イベントに参加。当事者目線の大切さを実感。**

防災委員会

「多摩区防災フェア」へは、障害者と一緒に防災のことを考えている協議会の存在を少しでも区民に知ってもらえたら、との思いから当事者と当事者家族と共に参加しました。今回は特に、災害時に区民が障害者を見かけた時に、役立つよう作成した「災害時障害者サポートマニュアル」（八王子市発行）を要約して展示・配布。また、自助として作成した「おたすけカード」も紹介・配布しました。区民と一緒に防災に関わることができた貴重な一日でした。



**新しい広報誌、できました。「バックナンバー、あります！」**

広報委員会

もっと障害者のことを身近に知ってもらいたい。そんな思いを形に、平成27年4月から「たまネット」は記事も内容もデザインも誌面を刷新してリスタートしました。発行は年3回。障害をお持ちの当事者が日頃考えていること、日常生活の様子や各施設・事業所等のユニークな企画や活動などをわかりやすく読みやすくお伝えしています。ルビ付き誌面も準備。事業所にはメールでのデータ配布が可能です。通常は区役所一階コンコース、多摩市民館等のラックに置いてあります。どうぞ気軽に手に取ってください。バックナンバー15号、16号もぜひご一読を。区役所8階、高齢・障害課までお申し出ください。



みんなで「さらに一歩前進」☀️

この一年、私たちは「地域に出よう」をスローガンに活動してきました。それは、私たちが暮らす街や地域は、今どうなっているのか。まず現状を“見て、知って、伝え合おう。”そこから、きっと何か手がかりが、問題解決のヒントがつかめるかもしれない。その意気込みで各委員会のメンバーは地域へと。福祉関連のイベント等に参加したり、関係する事業所間の交流を図るなどそれぞれ独自に活動を展開。また、地域における情報、これまで知られることの少なかった当事者の声や日常生活の様子なども積極的に伝えていこう、と広報誌をリニューアルしました。

この多摩区地域自立支援協議会は平成18年度から活動を開始。平成23年度からは5年間の長期目標「障害者も共に楽しく生きる街づくり」をテーマ

に各委員会に分かれ障害のある方が暮らしやすくなるような取り組みを展開してきました。一人一人の、少しずつの支えによって、生活に変化が生まれる可能性があります。今後とも地域の皆さまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



平成27年度多摩区地域自立支援協議会



**“今、バリアフリーは?!”  
二つの商店会の皆さま  
アンケートのご協力  
ありがとうございました。**

当事者委員会

障害当事者委員会において、今年最大の目標であったアンケート調査は、6月の区役所通り登栄会様、10月の民家園通り商店会様と2回実施。多くの商店の皆さまにご協力いただきました。その結果、本当に有り難いことにご回答いただいた店舗の約半数がバリアフリーになっていました。出入口の段差は3分の2以上が無し、店舗内の段差無し9割。店内での車いすの移動可も7割。棚の位置の見やすさ7割、休憩場所あり7割…等々(ex. 民家園通り) 障害者に優しい状況でした。バリアフリーではない店舗でも、社員がサポートする、夏は冷たい飲料水&冬は温かい飲み物を提供、商品は近くまで行き、手渡しするなど細やかな心配りをして頂いています。



**多摩区地域自立支援協議会とは?**

障害者総合支援法に基づいて、川崎市内では各区に配置されています。障害のある方々が、住み慣れた地域で安心して暮らしていけることを目的に、本人及び家族、相談支援事業所、福祉関係事業所、専門機関、区役所等のメンバーで構成されています。地域の課題を明確にして、それを改善・解決するために地域や社会資源とのネットワーク作り及び様々な企画を立案・提案し実行しています。

お問い合わせ

多摩区保健福祉センター高齢・障害課 多摩区地域自立支援協議会 電話:044-935-3302 Fax:044-935-3396  
ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/tama/page/0000054346.html> [多摩区地域自立支援協議会](#) [検索](#)

今、どんな活動をしていますか？

現在、多摩区内には多数の福祉施設、事業所があります。それぞれ創意工夫したプログラムやユニークな取り組み等、その活動を当事者の声と一緒にお伝えします。

### 企業とのコラボレーション体験

もう、食べてみましたか？

# はっぴわーくの手作り無添加ジャム。

●平成 27 年 10 月 14 日～11 月 30 日 ●JR 東日本南武線沿線駅リトルマーメイド、ベッカーズにて「多摩川梨ジャム」の地産地消メニューを期間限定販売。

## 果肉がゴロツと、食感がうれしい。旬の果実味を召し上がれ！

向ヶ丘遊園駅から徒歩5分。はっぴわーくは平成 21 年 9 月に開設。主に精神に障害がある方のための事業所として、2 年目からジャムの製造に取り組んでいます。

一番人気は川崎の特産品である多摩川梨を使ったジャム。材料は地元農家より直接仕入れていきます。そのほかにも季節の果物や野菜のジャムを約 10 種類製造。「はっぴわーくのジャムは濃厚で美味しい」と、だんだんと皆さまに愛される商品へと成長してきました。

その手作りジャムの特徴は、

- ①新鮮！出来立て！
- ②無添加、保存料なし。
- ③砂糖控えめでカラダにやさしい、こと。

毎年新作ジャムの研究にも取り組み、昨年はさくらんぼジャムが誕生！お客様に大変喜んでいただきました。

## ファン拡大！自信もつきました。飛躍のステップになった、JR東日本のタイアップキャンペーン

そんなはっぴわーくに、ビッグ・ニュースが飛び込みました。私たちの「多摩川梨ジャム」が JR 東日本のキャンペーンに採用！多摩川梨ジャムを使った新商品が、南武線沿線駅のリトルマーメイドとベッカーズにて販売されることになったのです。PR ポスターを閲覧になった方もいらっしゃるかもしれません。

初めはこんな一大イベントに「大丈夫だろうか、作りきれんだろうか…」



と不安一杯でスタート。でもみんなで頑張っ取り組んだ結果、これまでにない多くのお客様に知ってもらえることができ、売り上げもアップ。「わ、すごい！」その実績は「お客様に喜んでくれた」という嬉しさに。仕事へのやりがい、意欲に繋がって、確かな自信と誇りになりました。

さらにキャンペーンの後にもお客様からの反響があり、昨秋、2 年目を迎えることが出来ました。



### 支援者の声

この活動を支えてくださっている地元の皆さまに心から感謝します。

- 「多摩川梨が障害のある方の役に立ってもらえるなら、という気持ちで応援しています。」 梨農家・石井さん
- 「一生懸命作っても規格外のものができてしまうのですが、それがジャムという形で有効活用されるのはとても嬉しいです。」 梨農家・松浦さん

**NPO法人たまあさお精神保健福祉をすすめる会(SKY)**  
就労継続支援 B 型事業所 はっぴわーく  
〒214-0014 川崎市多摩区登戸2959  
TEL・FAX：044-299-6367

### くらし委員会レポート

# いつもと違う街に、わくわく。新しい発見と出会いがいっぱい。

- 平成 27 年 12 月 5 日(土) 向ヶ丘遊園駅周辺
- サポートセンター Rond、工房和丘、川崎きた作業所、 Rond 2 号館 (4カ所の会場をまわるスタンプラリー実施)

## Rond 祭り 探訪記

Rond 祭りは、向ヶ丘遊園駅周辺の複数の事業所や施設が一緒になって開催。障害のある方々が、「生まれ育った地域の中で仕事をしながら生活したい」という願いから作られた各事業所の仲間達のお祭りです。

「いつもはさびしい裏通りも活気づいて、人がいっぱいになる一日ですよ」と聞いて、早速、くらし委員会も「地域に出かけよう！」と所属のお二人が勇んで出掛けました。

くらし委員会を代表していってきます！



## 「あ、鯨の缶詰を発見！」 草木染めも織物もいいね。

最初はサポートセンターへ。ここでは東日本大震災復興支援で岩手県山田町の物産品を販売。なんと山田町では以前、鯨をとっていたとのこと、鯨の缶詰がありました。作品の展示・販売では、きれいな色や模様にも染められた手ぬぐいが美しく目を奪われました。

次は工房「和丘」へ。多彩な糸が織りなすマフラーや手袋、バック、小物入れなど素敵な作品がいっぱい。「さをり織り」の様子も間近に見られました。さらに川崎きた作業所では、カレーを食べて、バザーを見て、多数の展示品をひとめぐり。地域の方々が大勢いらして、まさに大盛況です。最後に訪れた Rond 2 号館で、わたあめを食べつつ、4 つのスタンプと商品ももらって、無事ラリー完了です。



## ひとりで動けるって、素晴らしい。うれしい会場での出会い。

お昼からはライブ演奏があり、みんなで歌いました。ふと知り合った電動車いすの女性は、一人で来ているとのこと。「初めは不安だったけど、今はどこでも一人で出かけているのよ。もちろん映画も一人でね」とにっこり。

手が震えてしまうという障害を助けているのは、たくさんのボタンが着いた操作盤。行きたい方向のボタンを押すだけで楽に移動できるのだそうです。そんな出会いも思いがけなく、Hさんは会場や途中の道で多くの知り合いに遭遇。久しぶりに会えて大喜び。各会場は離れていますが、黄色いジャンパー姿の案内人がいるので迷わずに安心。天気も良く、青空がひろがり、12月とはいえさわやか、充実の1日でした。

探訪者 ● Hさん(写真左上) ● 亀井芳子さん(相談支援センターいろはにこんべいとう)

### くらし委員会

街の中に楽しみを見つけよう！

今年度はじめて立ち上げた委員会です。障害のある人たちが気軽に出かけられるような場所や地域のイベント、サークル活動などの情報を集め、参加できるものについて情報発信することを目標に掲げて活動しています。



スタンプラリーの商品

工房入り口

作品展示会場